

はじめに

昨年5月25日「ツタヤ図書館」で街に魅力を多賀城駅前に新しい図書館を設け、その運営をレンタル大手で、TSUTAYA（ツタヤ）を展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）に委託……」という記事が突然新聞に発表されました。奇しくもその日は、仙台市出身の絵本作家とよたかずひこ氏をお招きし、多賀城市立図書館開館35周年記念行事が行われた日でもありました。前年からボランティア団体連絡会と市立図書館との共催事業として綿密に計画を立て、講演の中にボランティアの制作した布絵本『でんしゃにのって』（原作：とよたかずひこ氏）をボランティアが読む企画を盛り込み、皆が心待ちにしたその日は、記念すべき一日になりました。がその一方ではCCCと行政の巨大な力が、10年間続いたボランティア団体連絡会を解体へと追い込むことになる計画を着々と進める、正に始まりの日であったことには、まだ気づいていませんでした。

この10年間、ボランティア団体連絡会と苦楽を共にし、事務局を担当した者としての責任を果たすため、ここにその始まりから終わりまでを記します。

多賀城市立図書館の ボランティア活動 その歴史

昭和53（1978）年から10年間、多賀城市立図書館では、「手作り絵本講座」を開催し、完成した作品は、宮城県図書館で開催される「手作り絵本展示

多賀城市立図書館 ボランティア団体連絡会

—その歴史と現状そしてこれから—

尾形陽子

おがた・よつこ／宮城支部

会」に出品する事業を継続しました。講座を終了した後、その講座の先生を中心に受講生の方々に「手作り絵本愛好会」を立ち上げ、昭和62(1987)年に活動を開始しました。それから現在まで1年に1点の割合で布の絵本を制作し、図書館に送り続けてくれました。その数は、30点を超えています。そしてもう1つの団体、「朗読サークル多賀城」が、「公民館の講座を終了したので読み聞かせの活動をさせてください」と訪ねて来たのが平成3(1991)年のことです。メンバーの増減や交代がありましたが、この団体も現在まで活動が継続しています。その当時ボランティアという言葉は普及していませんでしたが、この2つの団体の活動が多賀城市立図書館のボランティア活動の始まりです。そしてボランティア団体が5団体に増えた時点で、横の繋がりが欲しいという意見が出され、平成15年8月、「多賀城市立図書館ボランティア団体連絡会」が発足しました。平成17年には書架整理ボランティアを希望する人が現れ始め、順序が逆になりましたが、ボランティアを受け入れるための「ボランティア活動受入要綱」を策定し、図書館の考え方を整理しました。現在では書架整理と環境整備を含めたボランティア9団体で連絡会を組織しています。

連絡会としての活動

発足時に策定した会則に則り、事務局を図書館内に置き図書館職員がその事務を執り行ってきました。図書館長が参与として会の運営に関わり続けましたが、昨年はこの会則の内容を後悔することとなりました。そのことには後で触れます。毎年の総会では、次年度の予算と事業、図書館を会場にしたボランティアの自主事業はもちろん、保育所や小学校への派遣事業等市立図書館との共催事業を決定します。さらに、研修事業の一環として継続してきた事業の一つに視察研修があります。他の図書館のボランティアとの交流を通じて学ぶ機会を得てきたのです。平成25(2013)年は南相馬市立中央図書館を視察研修先に決めました。TSUTAYA問題が起きて以来、図書館に依存した事務局のあり方に疑問を持ち始めた会員にとって、「としょかんのTOMOみなみそうま」の自立した活動には学ぶことが多いと考えたからです。市民の望む図書館を実現するために、1万件の

署名を集めたという代表の説明や新図書館建設に市民としていかに関わったかという話は感動的でしたが、それにもまして、研修の中で、早川副館長¹⁾が、CCCへの指定管理問題に触れ、「かつて、多賀城市立図書館は、あのような図書館になろうと目標にされるような図書館であったが、今やあのような図書館にだけはなるなどと言われる図書館に成り下がった。多賀城市民はそれでいいのか」という話をされ、その言葉に会員一同衝撃を受けました。涙ぐむ会員もいました。帰りのバスの中で、ぜひもう一度、多賀城に来ていただいて話を聞きたいということになり、12月8日(日)に多賀城市立図書館を会場に、講演会「わたしたちの図書館を考える」を開催することになりました。これまで同様、ボランティア主催の講演会であっても、市民の方にも参加してもらおうと役員会で決定しました。しかし、役員会后、連絡会会長宅を連絡会の参与である館長が訪れ、会員だけの講演会にするように、市民の参加は認められないと釘をさされました。市民の参加を認めれば大勢押し寄せて混乱するというのが理由でした。会長には圧力ではないと話したそうですが、その日を境に、会長の心に「会員たちを守らなければ」という強い決意が芽生え、図書館との信頼関係に深い溝が生じたように思えました。

ということで、当日は、会員だけの講演会となりました。その後早川副館長の助言を受け、すでに活動をしている会や、とにかく一緒に活動できる人たちみんなと手を取り合おう、それにはまず、子どもたちが安心して通える図書館を望む、私たちボランティアの話を聞いてほしいと、その願いをチラシにすることから活動を始めました。ここではその詳細を語る誌面の余裕がありませんし、今後の活動自体に支障が生じる可能性が無きにしても非ず、多くを語ることはまたの機会にしたいと思います。

そもそも市民活動・ボランティア活動とは

市民活動の要件については、故加藤哲夫氏²⁾から学びました。その経験を基に、「受入要綱第3条」で受講を義務付けている「ボランティア養成講座」の受講生に向け、担当者として市民活動の4つの要件について話してきました。

①公益活動 特定の人や団体の利益ではなく、公益すなわち公共の利益のため

の活動である。

②自主自発の活動 市役所のように権限と税金で行う活動ではなく、企業のようにビジネスとして行うのでもない、誰に強要されたのでもない、市民が自ら自発的に始める活動である。

③参加と情報公開 参加の道が多くの人に開かれている活動である。

④営利、宗教、政治を目的としない活動である。と。

この要件を学んだボランティアたちにとって、TSUTAYA 図書館となることが発表された多賀城市立図書館でボランティア活動を続けることが、従来通り公益活動に当たり、決して営利目的の活動に加担するものではないと心から思えるでしょうか。

指定管理になろうとも、市立図書館であることに何ら変わりはないのだから、ボランティア活動をしないのはおかしいと何度も言われました。10年間というもの、協働の相手として公務員である市立図書館の職員と綿密に連絡を取り合い、何事も一緒に計画し、取り組んできました。ある日その相手が急に姿を消し、TSUTAYA の職員が協働の相手になるのだと言われたら、そのショックの大きさには計り知れないものがあります。教育委員会側の言い訳は容易に想像がつきません。教育委員会の職員が図書館を担当するのだし、今まで図書館にいた非常勤職員がそのまま TSUTAYA の職員になるのだから何も変わらないと。が、それは協働の相手を巧みに入れ替えようとするのだと見抜いている会員たちには納得できる説明ではありません。

武雄市図書館のボランティア活動

武雄市図書館のことも引き合いに出されました。館長が武雄市に出張する際、ボランティア活動を受け入れている条件を知りたくて、受入要綱に準ずる資料をもらって来て欲しいとお願いしました。その答えは、「要綱はない。武雄では何も問題がなく、ボランティア活動が継続している」というものでした。その言葉は暗に、「多賀城市のボランティアたちだけが、なぜよけいなことを考えゴチャゴチャ言っているんだ」と言っていました。その図書館がボランティア活動をどのよ

うに位置づけ、図書館運営に生かすのか、その考えをきちんと市民に伝えることは、図書館の義務です。要綱を整理せず、図書館に都合の良いボランティアを受け入れている武雄市図書館のあり方を良しとする考えに憤りを感じます。

現状そしてこれから

何も知らされずに計画が着々と進行してしまうことに危機感を抱き、連絡会との話し合いはいつなのかと館長に質問してみました。その答えは「いったい何を話し合うのか」という失望以外の何物でもないものでした。受入要綱第7条（関係団体との協働）では……多賀城市立図書館ボランティア団体連絡会と連絡を密にし、協働してその活動を援助するとしています。協働の相手として、新図書館計画を話し合う舞台に連絡会を一緒に立たせて欲しかった、ただそれだけです。が、それはとうとう実現しませんでした。年末28日、生涯学習課長が新図書館計画について一方的な説明を行いました。何も意見は聞かないというその態度はかえって会員たちの反感を買っただけでした。

今年4月「多賀城市は16日、JR多賀城駅前に造る図書館の概要を発表し、運営を担う指定管理者は6月の議会で決まるが、レンタル大手「TSUTAYA」を運営するカルチャ・コンビニエンス・クラブ（CCC）が有力だ。……」と新聞発表されました。もう止められません。

現在、連絡会は今年度を最後の活動年度と決め、自立したボランティア活動のあり方を模索しています。

私は1月31日をもって多賀城市立図書館を去りました。もう「あなたも行政の人」と距離を置かれることもありません。今は、一市民としてボランティアさんたちに寄り添っています。連絡会組織が解体した後のボランティア活動がどのようになるのかを見守り続け、機会がありましたら、また報告したいと思います。

- 1) 現在は富士大学経済学部教授
- 2) 仙台・みやぎNPOセンター代表理事、多賀城市地域経営アドバイザー等